

米軍はフールージャ攻撃をやめろ！自衛隊はただちに撤退せよ 許せない！住民大虐殺の蛮行

イラク戦争でイラクの市民10万人が命を奪われたと推定され、11月9日から始まったフールージャ総攻撃でもすでに犠牲者が6千人を越えたと報じられています。



病院が破壊され、医師・看護士が拘束され、町中が瓦礫になりました。電気も水道も止まり、食糧・医薬品が底をついています。

イラク攻撃の口実とされた大量破壊兵器はなかったことが、米政府調査団の最終報告でも明らかになり、戦争の「大義」は完全に破綻したのに、ブッシュ政権は国連無視の侵略戦争と不法な軍事占領を続け、米兵をさらに増派して「テロ撲滅」を口実にイラク市民の殺傷しているので

アメリカこそ最大のテロ国家

侵略者に抵抗するのはイラク国民の権利。罪もない市民を標的にし攻撃することがテロだとすれば、国連も認めない無法な侵略戦争と軍事占領をおこなない、「国際人道法」に違反して市民を殺戮しているアメリカこそ、最大・最悪の「テロリスト国家」ではないでしょうか。武力攻撃を広げ一般市民の犠牲を増やせば、占領者への憎しみと怒りが高まるのは当然です。アメリカは非人道的な無差別攻撃をただちに中止し、イラク国民の主権を回復し、国連中心の復興・支援に道を開くべきではないでしょうか。

日本政府の責任も重大

世界中がこの蛮行に懸念と反対を表明している中で、米軍の行動をいち早く支持して「成功させねばならせない」と公言している日本政府の態度は異常です。

アメリカ力追随一辺倒、あくまで「自衛隊は撤退させない」と繰り返す小泉内閣と与党に抗議を集中し、12月14日の派兵期限を延長しないよう要求しましょう。

国民多数は「イラク派兵継続反対」

「イラク戦争を支持したのは正しい」という小泉首相の発言についても「納得できない」が67%、「納得できる」はわずか18%（朝日10月26日）
イラク派兵延長について

賛成	25%	反対	63%	（朝日10月26日）
賛成	27%	反対	51%	（毎日11月8日）
賛成	26%	反対	63%	（NHK11月8日放映）